

コトワザから歌うなぎきまで

コトワザというのは漢字では「語」と書
く。こんなややこしい字を使つてはかり切
が大へんだからカタカタにします。

ところがコトワザとは何か、ちよいと辞
典をひらいてみると、次の説明があつた。

——ひろく世間にまかりならぬしきたり
何や風刺の文句。

ついでのことには「諷刺」と「風刺」も同じ辞典か
ら説明を後ります。

まず「諷刺」の方は次の通り。

——着想が奇抜でみじかに表現の中に直
理をあらわしたことは。

それから「風刺」の方は、

——思ひもよらぬいほどすゝれてる様子。

——思ひもよらぬいほど目変わりな様子。

——と、（へ突飛）。

こうなつていた。

めかつたようだけれからないようは、落ち
つかないところもあるけれど、まあめかつ
たことにしよう。

それと、酒についてのコトワザとして、
すぐ思ひ出せるのを一つ書いてみる。多分
あなたも、もうアレだなとめかつてるやつ。
酒は百薬の長——これです。

とんち薬より酒はいい薬だ、ところい
てるわけだ。

もう少し複雑はないいまれしる日次のよう
にもいふ。

（酒は）（いふ）思ひを私（おまへ）う玉（たま）——

思ひは心配ごと、くさくさした気分とい

うけける、酒はそんなイヤなことをすうらりと掃きすててく出る上等のホーギドという。こいはいんはおほえがあるはずで、しかし、その玉帯の度々すきてくるとまるで別な文句の大へ行、てしまう。

酒はさちかい水——
十二ワブシの文句にはこんなのがあつた。酒を飲んだら虎、狼——
爺の場合、ほんとのトラ、オオカミは少ないのだけれど、一見トラ、オオカミのようになつてゐるものはよくいる。

こいをどう見るか。
もうまるでイヤなもののように毛ぎらひレはけけない。一見トラ、オオカミ的にスゴンをたりにするのが、実は正気のときなとでもおとなしくて、大きな音も出せないような人間ということがちよいちいある。彼は、せめて酒の力を借りて、日頃ネコ

のようにおとなしい自分が、トラがオオカミに生まれ代、たつもりになつてゐるにすぎない。か、こうだけなので、奥はや、ぱりおとなしいネコ、まはウサギみたいなのなんです。

それからこういうのもあつた。
酒なくして人のあのが浮世か石——
川柳が俳句みたいだけど、つまり飲むことが生き甲斐なんだ、これだけだろう。実際この世から酒がなくなる、このは、考えてもおそろしい。

そこで劇進してもう一つ。二んどはちゃんとした短歌を出してみる。これは作、た人ものや、ていて、影山正治という、いまの日本の右翼は一番影の通、た人物。ロッキード事件の児王豊工夫たたりも右翼といわれた人物といわれただけで、影山正治とくらべたらウサン臭いことは前からわか

ていた。とい、て何もなまがけいということではない。くどいようでもそこはケジメをつけたおく。でもこの歌だけは面白いよ。

酒知らずをみれば寝しめ歌もなき
似而非^{オノ}馬^{オノ}子^{オノ}らは猿にがも似る——

どういう意味かはめかるでしょう。
酒も飲まなせするにこそるさず、歌もうたけないうは男はニロモノで、そんな奴は猿に似てる、ということだ。この、歌レというの、シコ、クボ、クス、歌とは馴なんだけれど、しかしその程度に解釈してもかまれないと思う。

コトワガも歌もなくして酒の出てくる言葉に次のもある。

酒池肉林——
これはシコ、キニクリンと語ひのる、酒もゴキソウ（鬼）もふんだんにある豪華版の酒池肉林のことだぞうだ。

ざつとこんなところ。

おしほいに、ソラを思い出せる酒の歌を適當につなぎ合わせてみる。どこまでつながらるか。つたなにもや、ておたら、……

酒の飲む酒の飲むの御意見は水と酒は
おれのめ飲むならば酒は流が溜息かひとり
酒場での酒は愚痴げなげれせがせで
おれば殿の居きの月見酒たと之火の酒あ
ろうと夜の花なら狂い味手男マドロス船出
の酒に酔うて眼あよ夜明けまで酒は食れど
も何故酔め満たすかツヌのその底に酒に
やつれ之未練にやせて男煮水のヌター弾き
せの之今夜はさしつささいつ飲んて明かそ
よみ富さん月かめびしい路の裏の屋台の酒
のほろにかさカル々と酒にたれた脳にな
んて住めよかなんて住めよかアアあのひと
か……… ああシンド。

ワン・カツを異聞

○

深夜販売中止

昨年お祭りから、深夜（十一時）から十二時）になると、釜の中の酒の自動販売機は販売中止になるようになった。
 オールナイトで酒をのませた立ち飲升屋も何年か前になくなり、二んどは自動販売機も中止になった。

向くところになるとケイカツの登場らしい。ちよ、と釜を注いだら、一試中や、と多のだから、法律を禁止されたわけじゃないらしい。前はほとんどドヤザ内限なんてあまりなかったけれど、三年ほど前から内限を決めるようになった。これモケイカツからい、とされたようだ。暴動、が一試中続くのに対して、ドヤビレめだし、酒をうらなけければおさまる。

○

と君えたららしい。らしいといふのは僕の推測であらう。ケイカツから出たワケじゃないのだが、暴動。なんとものは、皆んなの怒りが何かのモン、刀で爆発するもんだから、一時的対策なんかにしても、原因一今の資本主義の矛盾そのものをなくさない限り、又そのうちに起こるだろう。

いずれにしても不便でしかたがない。誰だ、と、ぬき出すと酒の助けを借りた夜はあんなもんだ。まうまう歩いていて目撃販売機をさがすが、高くとまさないオールナイト営業。八千代へ行くしかなない。酒よこせ暴動。さもおこすか。

よそよりモ一〇円高い

夜中によその町へ買いにいってビッブリした。酒もビールも釜の方が10円高い。釜ほど酒のうれるところはなないだろうに、10円高いと口組がいかない。まさか深

夜営業中止の損失を10円高くしてこうおめせよう、と決まらないうちに。申しあわせにように、釜の中は一幸同じネデコになつてゐる。

○

百円の焼酎ワンカツ

これは自動販売機では残念なからまてない。豆腐、酒屋を買いだめしておくしかない。

日本酒のワンカツは一八〇ml入りだが、のが焼酎は二〇〇ml多い二〇〇ml入りなのだ。アザノヒョウとシチガヒアリ、アザノヒョウの方が10円安く九〇円を定めてゐる。アルコールは二五度。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。

アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。アザノヒョウ、アザノヒョウ。焼酎”に少し。